

第1回自然体験活動指導者養成研修会

日時;平成20年9月6日(土)
9時40分～16時00分
場所;コラボしが21 3階大会議室



コラボしが21(3階大会議室)で、第1回研修会を実施しました。
受講申込者は35人でしたが、当日、急に都合が悪くなられた方もあり、27人の出席で開講しました。
小学校での長期自然体験活動に指導者として関わろうとする強い意志を持って、終始熱心に受講いただきました。

最初に県教委 関生涯学習課長から、子どもを取り巻く状況と本研修会の趣旨説明を含め、6回にわたる研修をぜひ最後まで受講いただきたいと、激励のあいさつがありました。
その後、日程説明と本研修の概要説明を行い、いよいよ研修会が始まりました。



研修Ⅰ

「学校教育における体験活動の意義」
京都教育大学准教授 遠藤 浩 氏

- ・新学習指導要領における「自然体験活動」の位置づけ
- ・生きる力とは？
- ・自然体験活動の重要性
- ・民間団体の導入
- ・長期集団宿泊体験活動の運営における問題
- ・近年の自然体験活動の傾向

などの観点から、学校における野外活動(自然体験活動)の現状と未来について、ご講義いただきました。
また、実際のキャンプの場面を記録したVTRを視聴しながら、子どもたちがどう変わったかについて研修しました。
マメさんキャンプに是非参加したいと思われた受講生もたくさんおられたのではないのでしょうか。



研修Ⅱ

「教育課程と体験活動の関連性」
国立若狭湾青少年自然の家
主任企画指導専門職 金澤 博文 氏

- 施設の特徴ある活動の紹介とともに、
- ・小学校の現状と課題
 - ・小学校における体験活動の位置づけ
 - ・失われつつある地域教育力
 - ・なぜ長期宿泊体験活動なのか
 - ・「若狭湾の自然学校」の成果
 - ・自然体験活動において期待できる学習効果

などについて、パワーポイントで映像を示しながらご講義いただきました。

人と自然との関わりの中で子どもたちが成長していく姿に感銘を受け、改めて自然体験活動の重要性について認識することができました。

